

日

2011年(平成23年)11月8日火曜日

# 子ども用の動物将棋

## 全国販売 紀北町産尾鷲ヒノキ

知育玩具などを販売する「O円」。

4日に紀北町役場で、

尾鷲ヒノキを同社に勧め

た国産木材の雑貨販売・

コンサルタントグリーン

マム(東京都大田区)川

キ材を提供した海山区相

賀の植村材木店の植村一

英さん(37)、森林組合

おわせ職員の濱田長宏さ

ん(41)が商品を説明し

た。動物将棋は女性棋士の

北尾まどかさんが考案。

ライオン、キリン、ゾ

ウ、二ワトリを描いた4

個の駒を使い、一番強い

ライオンを取れば勝つル

ール。紀北町産の尾鷲ヒ

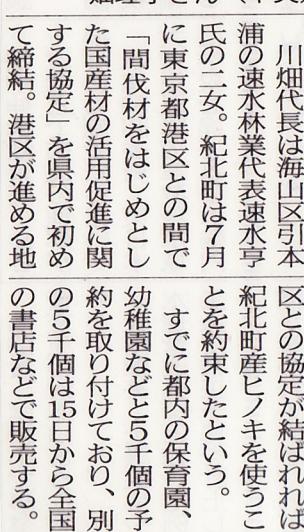
ノキを4枚四方で厚さ1

・5枚の駒に加工。横19

枚、縦30枚で12までの盤には岡山県産のヒノキを使用。ガイドブック付きで3歳児から遊べるとい

う。川畠代長は海山区引本浦の速水林業代表速水亨氏の二女。紀北町は7月に東京都港区との間で「間伐材をはじめとした国産材の活用促進に関する協定」を県内で初めて締結。港区が進める地

尾鷲ヒノキ製の動物将棋の開発にかかわった川畠理子さん(中央)ら(4日、紀北町役場で)



球温暖化防止と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出削減の「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」で港区に登録された建築業者が紀北町産材を使うことで、CO<sub>2</sub>が建築物に固定されるという仕組み。

紀北町にとって協定締結後、初めての製品となる。港区としても協定を

してという。川畠代長は関

東圏で尾鷲ヒノキ内装材

などの販売で、幻冬舎工

デュケーションが国産ヒ

ノキを使った動物将棋の

開発を進めていることを

聞き、尾鷲ヒノキを提

案。動物将棋は平成21年に発売してこれまでに33

万セットを販売したヒツト商品。これまでには中国

産材を使っており、幻冬

舎工デュケーションは港区との協定が結ばれれば

紀北町産ヒノキを使うこ

とを約束したという。

すでに都内の保育園、幼稚園などと5千個の予

約を取り付けており、別

の5千個は15日から全国

の書店などで販売する。